発音・逐語訳

Er erschreckt uns unser Retter, der Tod.
[é:*r*] [ə*r*ʃrɛ́kt] [ʊns] [ʊ́nzə*r*] [rɛ́tə*r*] [dɛ*r*] [to:t]
それは　怯えさせる　私たちを 私たちの　救う者　定冠詞　死

Sanft kommt er, leis im Gewölke des Schlafs,
[zanft] [komt] [é:*r*] [láis] [ɪm] [gəvœ́lkə] [dɛs] [ʃrafs]
穏やか(形容詞)　来た　それは 小さい、微かな　～に　叢雲　定冠詞　眠り

aber er bleibt fürchterlich, und wir sehn nur nieder ins Grab,
[ábə*r*] [é:*r*] [bláipt] [fýrçterlɪç] [ʊnt] [vɪ*r*] [zen] [nʊ*r*] [ní̈də*r*] [ɪns] [gra:p]
しかし　それは　～のままである　恐ろしい　そして　私たちは　見る　ただ～だけ下へ　～の中　墓

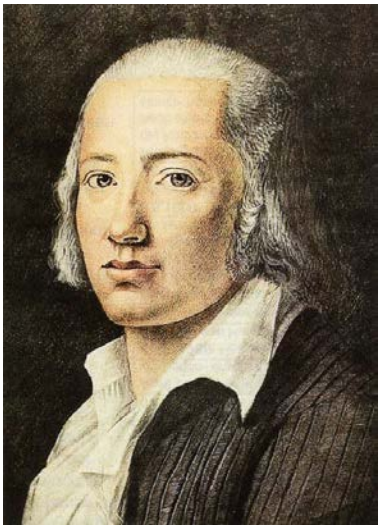
ob er gleich uns zur Vollendung führt aus Hüllen der Nacht hinüber
[op] [é:*r*] [gláiç] [ʊns] [tsʊ*r*] [fólənduŋ] [fy:rt] [aʊs] [hýlən] [dɛ*r*] [naxt] [hɪn'ý:ber]
～かどうか　それが　同じ　～へ　完全、完成 連れてくる　～から外へ　包む　定冠詞　夜　向う側へ

in der Erkenntnisse Land.
[ɪn] [dɛ*r*] [ə*r*kɛ́ntnɪsə] [lant]
～の中　定冠詞　認識　土地

（タイトル上に書いてある一文）
Dem Magdeburger Mannergesangverein 08 gewidmet
定冠詞　マグデブルク(都市の名)に　男声+合唱+協会　献呈⇒マグデブルク男声合唱協会に捧ぐ

表現記号
Ruhig, mit Ausdruck
静かに　～をもって　表情

作詩者・作曲者について(Wikipedia よりコピペ)



【作詩者】ヨハン・クリスティアン・フリードリヒ・ヘルダーリン（Johann Christian Friedrich Hölderlin, 1770 年 3 月 20 日 - 1843 年 6 月 6 日）は、ドイツの詩人、思想家である。ラウフェンに説教師の息子として生まれ、テュービンゲン大学で神学生としてヘーゲル、シェリングとともに哲学を学ぶ。卒業後は神職にはつかず各地で家庭教師をしながら詩作を行い、書簡体小説『ヒュペーリオン』や多数の賛歌、頌歌を含む詩を執筆したが、30 代で統合失調症を患いその後人生の半分を塔の中で過ごした。

生前はロマン派からの評価を受けたものの大きな名声は得られなかったが、古代ギリシアへの傾倒から生まれた汎神論的な文学世界はロマン主義、象徴主義の詩人によって読み継がれ、またニーチェ、ハイデガーら思想家にも強い影響を与えた。

【作曲者】パウル・ヒンデミット　（Paul Hindemith, 1895 年 11 月 16 日 - 1963 年 12 月 28 日）は、ドイツ・ハーナウ出身の作曲家、指揮者、ヴィオラ奏者。その他にもヴァイオリン、クラリネット、ピアノなど様々な楽器を弾きこなす多才な演奏家であった。第一次世界大戦後、ロマン派からの脱却を目指し、新即物主義を推進。20 世紀ドイツを代表する作曲家として同時代の音楽家に強い影響を与えた。また生涯に 600 曲以上を作曲。交響曲やオペラばかりではなく、オーケストラを構成するほぼすべての楽器のためのソナタを作曲した。

参考音源

iTunes store で「hindemith der tod」で検索すると、何点か候補が出てくるので、参考音源として欲しい方はどうぞ。
いずれも 150～250 円で単品購入可能。

演奏団体
・Netherlands Chamber Choir & Uwe Gronostay
・Robin Gritton & ベルリン放送合唱団
・Flemish Radio Choir, ポール・ヒリヤー & Solisti del Vento I

このうち、1、2 番目の団体の演奏は、Der Tod の入った男声合唱曲集の他の曲もある。

日本で Der Tod が演奏された記録

(Google の検索に引っ掛かったものを列挙)

・明治大学グリークラブ　第 25 回東京六大学合唱連盟定期演奏会(1976/5/15)
・卓友会男声合唱団　第 58 回東京都合唱コンクール(2003/10/4)　自由曲
・東北大学男声合唱団　第 32 回定期演奏会(1984/12/12)